

すくすく

たけのこキッズ

第18号



川崎こどもクリニック

〒597-0102 貝塚市木積656-7

電話：0724-21-2033

http://www.kawasaki-kc.jp

平成17年10月14日発行

風邪ひきさん 微増

地元祭礼では、初日はひどい雨でした。見物をしてきた人も含めてびしょりと濡れてしまった人も多かったのではないのでしょうか。祭礼が終わって疲れが出る頃です。昼間はまだ汗ばみますが、朝夕は長袖が欲しくなってきました。いろいろと風邪をひきやすい条件が揃っています。注意してください。

海外予防接種事情

WHO（世界保健機構）では、最低限接種すべきであるワクチンとして麻疹、三種混合、ポリオ、BCGをあげており、これらは世界的にほぼ共通に接種が行われています。その上に各国の事情によってその他のワクチンが組み合わされ、実際の接種が行われています。例えば、日本では小児に対して麻疹、三種混合、ポリオ、BCGに加えて風疹、日本脳炎のワクチンが定期接種として規定されています。ただ、これらの予防接種を行う時期や方法はそれぞれの国によって違います。



三種混合といえば日本でも一般的に利用されているワクチンですが、これはご存じのようにジフテリア、百日咳、破傷風のワクチンを混合したもので1回の接種で3種類の疾患に対する免疫の獲得ができます。日本では2005年段階では、それ以外にこのような混合ワクチンはなく、三種混合以外のワクチンは一定の間隔をあけて1つずつ接種します。一つずつ確実に免疫をつけていこうという考え方です。これに対して欧米を中心に海外では麻疹、風疹、おたふくかぜの3つのワクチンを混合したMMRワクチンが利用されています。また、MMRと三種混合を同時に接種したり、さらにポリオやB型肝炎、インフルエンザb菌（下記注）ワクチンまで同時に接種したりすることも行われています。これは、まとめて多くのワクチンを接種することで、必要なワクチンを最少の受診で済ませてしまおうという考え方です。

その他、それぞれの国内での状況により必要とされるワクチンの接種回数も異なります。アメリカ、フランスなどの欧米の諸国、お隣の中国や韓国のように、小学校などに入学するには「予防接種を済ませているという証明書」が必要な国もあります。このように各国で少しずつ考え方や接種方法は違いますが、共通してその底辺にあるのは「ワクチン接種により子どもを感染症から守ろう」という思いです。

注：肺炎、髄膜炎や敗血症というような重症感染を起こすことのある菌。インフルエンザウイルスとは別のもの。

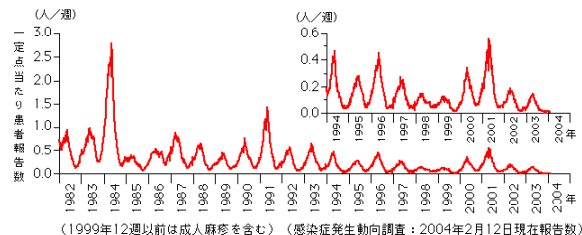
予防接種法改正

来年4月に麻疹と風疹の混合ワクチンが登場します。このワクチンは麻疹(Measles)と風疹(Rubella)の頭文字をとってMRワクチンと呼ばれます。麻疹、風疹とバラバラに接種していたものの代わりにこのワクチンが公費負担で接種されることになるのです。それと同時にこのMRワクチンは小学校に入るまでに2回接種することになります。1回目は従来どおり1歳のお誕生日を過ぎればスグ（2歳未満に）、2回目は小学校入学の前の1年間（幼稚園や保育園の年長組さんの時に）です。

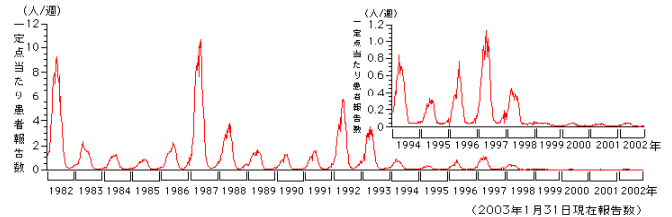
では、なぜ2回接種をしなければならなくなったのでしょうか。下のグラフのように、麻疹や風疹はワクチンの接種が広く行われるようになって大きな流行がなくなってきました。免疫は一種の記憶です。実際のウイルスに会うことがなければワクチンでついた免疫はだんだん低下する（忘れる）こととなります。そこで免疫が低下する（忘れる）前にもう一度ワクチンを接種して免疫を強化する（復習して記憶を確かにする）というわけです。

なお、法律の改正に伴って、ちょっと困ったことも起こっています。麻疹を打っていて、風疹がまだのまま4月になってしまうと、公費で風疹を打てなくなる可能性が大です。麻疹・風疹を単独で打った場合に年長組さんでのMRワクチン接種をどうするかも決まっていません。このような諸問題については小児科学会や小児科医会といった団体が厚生労働省に働きかけをしています。とりあえず平成17年2月以前に生まれた方は「麻疹、そして風疹を年度内に打つ」という対応をしてください。

麻疹患者報告数の推移（小児科定点当たり）、1982年第1週～2004年第6週



風疹患者報告数の推移、1982～2002年（感染症発生動向調査）



貝塚市休日急患診療所出務

10月は川崎の出務日があります。

10月16日（日）午前10～12時、午後1～4時

なお、貝塚市医師会のホームページで出務医師がわかります。
<http://www7.ocn.ne.jp/~kaiduka/>